

地域（磐田市）小規模事業者の動向（平成29年10～12月期の景況）

【調査の概要】

- 1、調査目的・・・磐田市商工会が小規模事業者の持続的発展を支援するために、当会から見た地域の景況並びに経営課題を把握する。
- 2、調査対象・・・当会の会員企業67社
業種別内訳は、地区内商工業者の構成比率を考慮して、建設業19社、製造業24社（輸送関連15社、その他9社）、小売業10社、飲食業6社、サービス業8社とした。
- 3、調査方法・・・当会の経営指導員による面接聴取によるアンケート調査
- 4、調査内容・・・対前年同月との比較
項目：売上高の増減、仕入単価の変動、利益の増減、資金繰りの変化、人材の充足度
- 5、分析方法・・・各項目について、プラス傾向（増加、上昇、好転、過剰）から、マイナス傾向（減少、低下、悪化、不足）の構成比を差し引いた数値（判断指数）・DIをもとに分析した。
- 6、各指数の「改善、悪化」の変化は、前回調査（平成29年4～6月期）と比較して捉えた。

（注）地域金融機関の景況調査（静岡県西部地域しんきん経済研究所）の調査結果も活用し地域の動向を把握することとした。

【磐田地区製造業の状況】

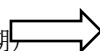
<磐田地区製造業の景況感>

製造業の景況は、前回調査（平成29年4～6月期）と比較して売上額及び収益DIの改善がすすみ、高いプラス水準となっている。

特に輸送関連製造業では仕入価格の上昇はあるものの、増収、増益であり好調である。



前回調査（平成29年4～6月期）



今回調査（29年10～12月）

●売上額の動向

売上額DI（増加－減少）は、当会調査では製造業全体は61.1であった。（輸送関連製造業では53.3、その他製造業では33.3）。前回調査（平成29年4～6月期）との比較では38.9㊦の改善となっている。

静岡県西部地域しんきん経済研究所（以下では、しんきん経済研究所と略称する）による調査では、製造業全体で25.6であった。前回調査（平成29年4～6月期）との比較では24.5㊦の改善となっている。

製造業全般に売上高の増加感は顕著である。

●仕入単価の動向

仕入単価DI（上昇－下降）は、当会調査では製造業全体は38.9であった。（輸送関連製造業では、は33.3、その他製造業では22.2）。

前回調査との比較では11.1㊦の悪化（仕入単価の上昇）になっている。

しんきん経済研究所では製造業全体で22.0であった。前回調査との比較では2.7㊦の悪化とな

っている。

●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では製造業全体は38.9であった。（輸送関連製造業では、33.3、その他製造業では22.2）。

前回調査との比較では27.8%の改善（収益の増加）となっている。

しんきん経済研究所では製造業全体で19.5であった。前回調査との比較では22.0%の改善となっている。

製造業全般の増益感が顕著である。

●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では製造業全体で5.6であった。（輸送関連製造業では、6.7、その他製造業では0.0）。前回調査との比較では11.2%の改善となっている。収益の増加に伴い資金繰りの好転が見られる。

しんきん経済研究所では製造業全体で-1.1であった。前回調査との比較では1.1%の改善となっている。

●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では製造業全体で22.2であった。（輸送関連製造業では、20.0、その他製造業では11.1）。

しんきん経済研究所では製造業全体で-35.9であった。前回調査との比較では11.4%の悪化（不足）となっている。

●調査員コメント

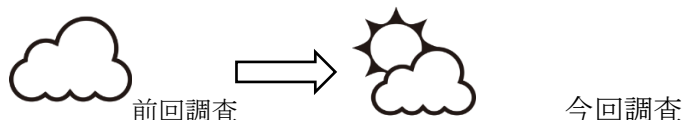
- ・機械を導入し、今まで加工できなかったサイズまで加工することにより売り上げ拡大を図っている。（自動車部品）
- ・現状で手一杯感があるが、受注体制構築により対応する。インターネット活用による販路拡大を図る（自動車部品）
- ・展示会への出展・商品開発により売上拡大を図る。（食品製造）
- ・自社の強みである短納期で迅速に対応できることをアピールして売上拡大に取組みたい。
- ・新規設備を導入し売上増に取り組む。（繊維製造）
- ・新しい取組として、自社ブランド開発をする。
- ・よそが嫌がる仕事を引き受けて売上拡大を図る。自動車部品）
- ・地産地消、無添加で素地にこだわった商品づくりに励んでいる。（食品製造）
- ・生産能力の大きな機械を導入し、同一ラインで生産を行い、部品の安定供給に結び付けたい。（自動車部品）
- ・事業承継を行った。現体制を、新たに事業を行う準備をしている。（繊維製造）
- ・現状で手一杯でありこれ以上の売上拡大が難しい。（自動車部品）
- ・仕事量はあるが、求人募集をしても採用できないので受注をこなせる範囲で営業を続けている。（食品製造）
- ・商工会に期待すること
困った時の相談相手。（自動車部品）
マッチング（企業紹介）。（食品製造）
今後も補助金支援を期待する。（複数社）

商工会員間の交流で仕事量の増加を期待する。(複数社)
記帳関係など税務面の指導。(複数社)
設備導入の際の借入相談。(機械)
事業計画の作成支援。(繊維製造)

【建設業の状況】

<磐田地区建設業の景況感>

建設業の景況は、売上額及び収益DIともにプラス水準である。前回調査(平成29年4~6月期)との比較では、売上額DIは減少、収益DIは増加となっている。



●売上額の動向

売上額DI(増加-減少)は、当会調査では5.3であった。前回調査(平成29年4~6月期)との比較では31.1%の悪化となっている。

しんきん経済研究所では39.1であった。前回調査との比較では35.9%の改善となっている。両調査とも売上額DIはプラス水準ではあるが、前回調査との比較では「悪化、改善」の差が大きい。

●仕入単価の動向

仕入単価DI(上昇-下降)は、当会調査では15.8であった。前回調査との比較では38.7%の改善となっている。仕入価格の上昇感は低下した。

しんきん経済研究所では25.0であった。前回調査との比較では5.6%の悪化となっている。

●利益の動向

利益DI(増加-減少)は、当会調査では5.3であった。前回調査との比較では14.4%の改善となっている。

しんきん経済研究所では21.9であった。前回調査との比較では30.0%の改善となっている。両調査とも利益の改善感がある。

●資金繰りの動向

資金繰りDI(好転-悪化)は、当会調査では10.5であった。前回調査との比較では1.4%の改善となっている。

しんきん経済研究所では1.6であった。前回調査との比較では9.7%の改善となっている。

●人手の動向

人手DI(過剰-不足)は、当会調査では-5.3であった。前回調査との比較では12.9%の改善(人手不足感が減少)となっている。

しんきん経済研究所では-42.2であった。前回調査との比較では27.7%の悪化(人手不足感が増加)となっている。

●調査員コメント

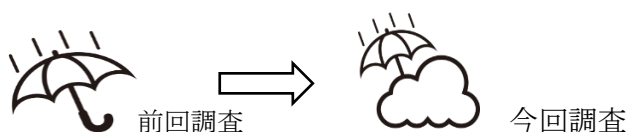
- ・既受注先顧客による紹介が多いが、HP等を活用した新規顧客の獲得を目指す。

- ・リフォーム事業への積極的な取り組みにより売上拡大を図る。
- ・スタッフに考える場所を与え、自ら行動できるような会社を目指している。
- ・人手不足のため受注件数を増加させるのが難しい。従業員を入れて受注増を図りたい。
- ・お客様目線で良いものを提供していく。
- ・商工会に期待すること
 - マッチング機会の提供。
 - 補助金制度の情報提供。(多数)
 - 建設業許可申請代行、労働保険事務委託。
 - 商工会員間の交流で仕事量増を望む。(多数)
 - 他社がどのようなことをしているか知りたい。
 - 労働保険や決算申告などの指導。
 - 税務面の指導。(複数社)
 - 税理士とは違った目線からの経営アドバイス。

【小売業の状況】

<磐田地区小売業の景況感>

売上額 DI 及び収益 DI は改善が見られるが、依然としてマイナス水準であり厳しい景況にある。



●売上額の動向

売上額 DI (増加-減少) は、当会調査では-10.0であった。前回調査との比較では70.0%の改善となっている。

しんきん経済研究所では-5.6であった。前回調査との比較では17.0%の改善となっている。両調査とも売上額 DI は改善しているもののマイナス水準である。

●仕入単価の動向

仕入単価 DI (上昇-下降) は、当会調査では20.0であった。前回調査との比較では20.0%の悪化(仕入単価の上昇)となっている。

しんきん経済研究所では18.5であった。前回調査との比較では2.3%の改善となっている。

●利益の動向

利益 DI (増加-減少) は、当会調査では-20.0であった。前回調査との比較では40.0%の改善となっている。

しんきん経済研究所では-9.3であった。前回調査との比較では15.2%の改善となっている。両調査とも改善の傾向はみられるものの、マイナス水準である。

●資金繰りの動向

資金繰り DI (好転-悪化) は、当会調査では-30.0であった。前回調査との比較では10.0%の改善となっている。

しんきん経済研究所では-3.7であった。前回調査との比較では9.5%の改善となっている。

●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では0.0であった。前回調査との比較では20.0㊦の改善（人手不足から適正人員へ）となっている。

しんきん経済研究所では－24.1であった。前回調査との比較では3.3㊦の悪化となっている。

●調査員コメント

- ・高齢者への臨機応変な対応で売上拡大に取り組む。
- ・現在の顧客は高齢者が多いため、若年層と通行客各地区の為の看板を整理。
- ・リフォーム事業の窓口対応で販路拡大を図る。
- ・チラシ配布により新規顧客が増えた。若年層も増えつつある。SNS など情報ツールを使い売上拡大を図りたい。
- ・他店では置いていない商品を提供する等、差別化をして生き残りを図りたい。
- ・商工会に期待すること

地域活性化の旗振り役。（複数社）

異業種との交流。

持続化補助金などの申請支援。（複数社）

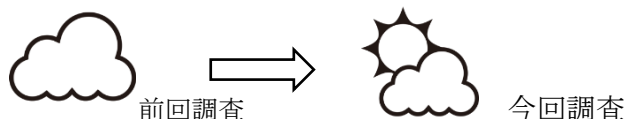
帳簿記帳など税務面の指導。

事業者の活性化に力を発揮してほしい。

【飲食業＋サービス業の状況】

<磐田地区飲食業＋サービス業の景況感>

売上高は前回調査時に比べ少し持ち直し、仕入単価は上昇、利益は少し持ち直しという状況にあり、景況感はやや好転している。



●売上額の動向

売上額D I（増加－減少）は、当会調査では28.6であった。前回調査との比較では28.6㊦の改善となっている。

しんきん経済研究所では－15.4であった。前回調査との比較では7.1㊦の悪化となっている。当会調査対象企業では売上額DIの改善がみられプラス水準となった。

●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇－下降）は、当会調査では35.7であった。前回調査との比較では34.3㊦の改善となっている。

しんきん経済研究所では15.4であった。前回調査との比較では9.6㊦の悪化となっている。当会調査対象企業の仕入単価DIの改善はみられるものの依然として上昇感が強い。

●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では14.3であった。前回調査との比較では24.3㊦の改善となっている。

しんきん経済研究所では-15.4であった。前回調査との比較では15.4ポイントの悪化となっている。

●資金繰りの動向

資金繰りDI（好転-悪化）は、当会調査では14.3であった。前回調査との比較では14.3ポイントの改善となっている。

しんきん経済研究所では-15.4であった。前回調査との比較では7.1ポイントの悪化となっている。

●人手の動向

人手DI（過剰-不足）は、当会調査では-21.4であった。前回調査との比較では1.4ポイントの悪化となっている。

しんきん経済研究所では-46.2であった。前回調査との比較では21.2ポイントの悪化となっている。両調査ともに、人材の不足感がある。

●調査員コメント

- ・チラシを継続して配布することにより売上拡大を図っている。（サービス）
- ・地元の食材を活用したコース料理と惣菜の販売で売上拡大を図っている。（飲食）
- ・持続化補助金を活用してHPを開設し顧客獲得の取組をしている。（複数社）
- ・持続化補助金を受けて店舗トイレを改装し売上げがあった。今後も持続化補助金を活用したい。（飲食）
- ・新規のサービスを導入。効果が良いためインスタグラムへの投稿を増加させ、口コミ効果で売上げに結び付ける。（サービス）
- ・商工会に期待すること
 - マルケイ制度の利用（低金利と簡単な手続き）（サービス）
 - 仕事の紹介（商工会の合併効果による恩恵を得るように）。（サービス）
 - 商工会員間の交流で仕事が増えることを望んでいる。（複数）
 - 中小企業が知らない有益な情報の提供。（サービス）
 - 補助金の情報提供。（複数）
 - 現場の状態を把握し適切な指導。（飲食）
 - SNSなどの情報発信など指導。（サービス）
 - 記帳指導の際に、問題点に応じたアドバイスをいただきたい。（サービス）

【静岡県西部地域しんきん経済研究所 10～12月期の概況】

●10～12月期の景況

静岡県西部地域の中小企業の業況判断指数（DI）は全産業ベースで11.6となり、平成29年9月期と比べて7.8ポイント改善した。今回、確認できる平成8年調査以来初めて10を上回った。

産業別では製造、小売、建設が改善となった。卸売、不動産、飲食レジャーが悪化となった。なお、製造、建設、不動産がプラス水準となっている。

●1～3月期の景況予想

次回の業況DIは3.6ポイントの悪化を見込む。産業別では小売のみが改善を見込む。製造、卸、建設、飲食レジャーは悪化を見込む。不動産は横ばいを見込む。